

加曽利貝塚友の会 年表

年次	1887	事項
1887	明治20	上田英吉の「下総国千葉郡介墟記」により、加曽利貝塚の存在が学会にはじめて紹介される。
1907	明治40	東京人類学会の「遠足会」に加曽利貝塚が選ばれ、はじめて発掘が行われた。 このとき、〈本邦第一の貝塚〉と認められ、一躍有名になった。
1915	大正4	東京人類学会の「遠足会」がふたたび加曽利貝塚で行われる。
1922	大正11	大山柏らにより貝層全体をA・B・C・Dの4地点に分けて測量調査が行われた。 貝層が8の字形に広がっていることが明らかになった。
1924	大正13	東京大学人類学教室によるB・D・E地点の3か所の発掘。大山柏によって設定された4地点に加え、新たにE地点が設定された。 このときのB地点とE地点の発掘成果をもとに「加曽利B式」と「加曽利E式」が設定されることとなった。
1934	昭和9	第一早稲田高等学院史学部による加曽利古山貝塚(南貝塚)調査。
1936	昭和11	大山史前学研究所による発掘調査が行われ、翌年「千葉縣千葉郡都村加曽利貝塚調査報告」が史前学雑誌に発表される。
1937	昭和12	山内清男により縄文土器の編年がまとめられ、加曽利E式は中期の後半、加曽利B式は後期中頃に位置づけられた。
1958	昭和33	明治大学考古学研究室による発掘。E地点の東側に7か所のトレンチを設定した。 発掘の結果、加曽利E式がI式とII式に層位的に分けられることを確認した。 また、地形測量も行われ、環状の北貝塚と馬蹄形の南貝塚が連結して8の字形を呈することが明らかとなった。
1960	昭和35	貝塚とその周辺部が宅地造成を目的に買収され、樹木の伐採やクイ打ちが行われて、遺跡が破壊寸前の状態であることがわかった。
1962	昭和37	加曽利貝塚の重要性を明らかにするために千葉市教育委員会(武田宗久団長)が、北貝塚の2地点で発掘調査を実施。
1963	昭和38	南貝塚の南端が整地により破壊され、これを契機に保存運動が急速に高まる。 日本考古学協会による「加曽利貝塚保存に関する要望書」が国・県・市に出される。 参議院文教委員会(第43回国会)において加曽利貝塚に関する質疑が行われる。 全国的な署名運動が展開され、千葉では「加曽利貝塚を守る会」が設立される。
1964	昭和39	千葉市が北貝塚を含む周辺一帯55,152平方メートルを買収する。 参議院文教委員会(第46回国会)で加曽利貝塚に関する質疑が行われる。 日本考古学研究会による南貝塚の発掘調査(～昭和40年)。
1965	昭和40	日本考古学研究会により加曽利貝塚を全面的に保存する要望書が国に提出される。 参議院文教委員会(第49回国会)で加曽利貝塚の買収に関する質疑が行われる。 住居跡群・貝層断面観覧施設整備に伴う加曽利貝塚調査団による北貝塚の発掘調査(～昭和43年)。
1966	昭和41	加曽利貝塚博物館開館(11月24日)
1968	昭和43	南貝塚買収開始。加曽利貝塚調査団による旧大須賀家住宅移築に伴う発掘調査。 北貝塚に竪穴住居跡観覧施設および貝層断面観覧施設を設置・公開。
1969	昭和44	旧大須賀家住宅移築。新井司郎氏への縄文土器制作技術研究委託開始(～昭和46年)。
1970	昭和45	加曽利貝塚調査団による南貝塚(東傾斜面)遺跡限界確認調査(～昭和48年)。
1971	昭和46	北貝塚および周辺が国史跡に指定される(3月22日)。
1973	昭和48	天皇・皇后・皇太子・皇太子妃ご来館
1974	昭和49	加曽利貝塚土器づくり同好会発足
1977	昭和52	南貝塚および南貝塚東傾斜面が国史跡に指定される(9月28日)。
1978	昭和53	三笠宮殿下ご来館。
1980	昭和55	浩宮(現皇太子)殿下ご来館。
1986	昭和61	開館20周年記念特別講座「加曽利貝塚の自然と文化」開催。 南貝塚史跡指定告示(追加分)。 南貝塚東傾斜面の復原集落整備。
1991	平成3	南貝塚東傾斜面の復原集落整備。
1992	平成4	政令指定都市移行記念事業「縄文フェスティバル」開催(～平成12年)。
1994	平成6	南貝塚の貝層断面観覧施設竣工。
1997	平成9	北貝塚の貝層断面・竪穴住居跡群観覧施設再整備。
2003	平成15	博物館ボランティア活動開始。
2007	平成19	加曽利貝塚公園が「日本の歴史公園100選」に選ばれる。 体験講座により縄文住居の復原建設を行う。